2025年2月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第577号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

谷川俊太郎さん追悼

///――――――

エン・ユアン）編による『となりの谷川俊太郎』（つぶやきコラム＝枡野浩一）を出版した。

また、そのほかに、個人的には俊太郎さんのご自宅に集まって始まった「詩を本の外に開く」活動のレーベル「oblaat（オブラート）」の作品『顕微鏡で読むガラスの詩集』、デジタル端末で一つ一つの文字が生き物のように動かせる電子詩集「ポエグラム」、詩を身に纏うTシャツ『ウエアラブル・シリーズ』などの商品化・販売、詩歌専用電光掲示板『ポエツリー』の制作・運用、また企画性の高い朗読会（ｖｓ.覚和歌子「対詩ライブ」など）の開催や美術展やアートイベントへの参加・制作などを行ってきた。その活動の中で、音楽家の谷川賢作さん、深堀瑞穂さん、孫でスタイリストの谷川夢佳さん、現代詩を歌うバンドDiva、ゆめある舎の谷川恵さんともご一緒する機会をいただいた。oblaatは松田朋春さん、則武弥さんと私が創設メンバーで、俊太郎さんは「看板詩人」だった。制作した商品は現在もポエムピースで販売している。

ポエムピースから出版しているリフィル型詩集（「未来」「愛」「いまここ」「宇宙」）の４冊は、代表作として親しまれている作品を収めた。世界初の聖書サイズの６穴システム手帳のリフィル型の詩集で、それぞれに１４～１６篇、１ページに１作品、絵葉書のように使えるシートもあり、詩の新しい読み方、楽しみ方を提案している。組み方に特徴があり、新鮮な感覚で詩を読める。４冊の詩集はリフィルのバラ売り、直筆サインリフィル、カラフルな表紙、バインダー、北海道で制作した特装セット箱など、様々なパーツの組み合わせで販売した。今までにない試みだけに、広め方にはとても苦労した。

２０２２年に発行した「となりの谷川俊太郎」は、１９５２年から２０２２年まで６９年間に出版された詩集から短い詩だけを田原（ティエン・ユアン）さんが選び、未収録作品、書き下ろし作品を加えて出版した。思い切り洒落たデザインで質感の良さにこだわった。解説代わりの「つぶやきコラム」を枡野浩一さんが執筆し詩と同じページに２色刷にして綺麗に載せた。仕様は下記の通り。

装幀　鈴木千佳子
四六判変形　２６４ページ
本文　２色刷
仮フランス装
見返し　あり
巻頭別丁　銀色（書き下ろし詩）
スピンつき
定価　本体１４５４円＋税

初版の印刷部数は５０００部と、ポエムピースのような小さな出版社としては思い切った数字だが、価格を安く抑えるための設定だった。

俊太郎さんにそれを告げると「大丈夫？」と心配された。同時期に他社からも出るとのことで、ポエムピースの弱小さをご存知の俊太郎さんのお言葉だった。

俊太郎さんのアイディアで全員「目瞑り」で撮った記念写真。左から則武弥、谷川さん、筆者、松田朋春（2012年・北軽井沢にて）

できあがった本は、手にするとなんとも贅沢な気分になるボリュームと質感だった。１２０の詩がそれぞれのフォルムを纏って堂々と立っているその立ち姿が美しい。

参考までにこの本に収録されている詩集を列挙してみると

「収録詩集一覧」
◆『二十億光年の孤独』（創元社・１９５２年）◆『六十ニのソネット』（創完社・１９５３年）◆「愛について』（東京創完社・１９５５年）◆『絵本』（的場書房・１９５６年）◆『あなたに』（東京創元社・１９６０年）◆『落首九十九』（朝日新聞社・１９６４年）◆うたのほん『日本語のおけいこ』（理論社・１９６５年　絵＝長新太）◆『谷川俊太郎詩集日本の詩人17』（河出書房・１９６８年）◆詩画集『旅』（求龍堂・１９６８年　　画＝香月泰男）◆『谷川俊太郎詩集』（角川文庫・１９６８年）◆『うつむく青年』（山梨シルクセンター出版部・１９７１年）◆『空に小鳥がいなくなった日』（サンリオ出版・１９７４年）◆『夜中に台所でぼくはきみに話しかけたかった』（青土社・１９７５年）◆『誰もしらない』（国土社・１９７６年　絵＝杉浦範茂）◆『そのほかに』（集英社・１９７９年）◆『手紙』（集英社・１９８４年）◆『女に』（マガジンハウス・１９９１年 絵=佐野洋子）◆『詩を贈ろうとすることは』（集英社・１９９１年）◆『十八歳』（東京書籍・１９９３年　絵＝沢野ひとし）◆『クレーの絵本』（講談社・１９９５年　絵＝パウル・クレー）◆『谷川俊太郎詩集』（ハルキ文庫・１９９８年）◆『クレーの天使』（講談社・２０００年 絵=パウル・クレー）◆『minimal』（思潮社・２００２年）◆『夜のミッキー・マウス』（新潮社・２００３年◆『シャガールと木の葉』（集英社・２００５年）◆『谷川俊太郎詩選集3』（集英社文庫・２００５年）◆『すこやかにおだやかにしなやかに』（成出版社・２００６年）◆『歌の本』（講談社・２００６年）◆『詩の本』（集英社・２００９年）◆『こころ』（朝日新聞出版・２０１３年）◆『ごめんね』（ナナロク社・２０１４年）◆『おやすみ神たち』（ナナロク社・２０１４年　写真＝川島

中国南京の書店での出版記念イベントにて（2013年/筆者撮影）

どこに行っても大人気の俊太郎さん。（2013年・中国の上海現代美術館にて/筆者撮影）

小鳥）◆『詩に就いて』（思潮社・２０１５年）◆『ページュ』（新潮社・２０２０年）◆『虚空へ』（新潮社・２０２１年）◆単行詩集未収録詩「蟻と蝶」

以上のようになり、これを眺めているだけでも、精力的な活動が分かる。

＊誰も把握できないほど活躍

谷川俊太郎さんの活動は幅広く膨大だ。鉄腕アトムの歌を口ずさむ人は多いし、レオ・レオニの絵本を愛読して大人になった子どもも数知れない。もちろん数々の詩集の他にも、スヌーピーやマザーグースの翻訳、東京オリンピックの公式記録映画（市川崑監督・１９６５年）の脚本、映画「股旅」脚本（同・１９７３年）など。

私はあまりの多彩さとその仕事の多さに「俊太郎さんは毎日がハレの日、晴れ舞台の連続ですね（雨男なのにね）」などと軽口を叩いたこともあったが、じっさい、俊太郎さんに肩書をつけるとしたら詩人だけでなく、それはその日ごとに変化する。

翻訳家、作詞家、絵本作家、随筆家、脚本家、映画監督、映像作家、美術家、アーティスト、歌手（笑）など、いくつもあげられる。他にもあるかもしれない。

＊私は立ち止まらないよ

そんな多忙な詩人は外見は優雅に見えた。だが次々と仕事を仕上げていった。

「私は立ち止まらないよ」、これは詩「トロムソコラージュ」の書き出しの１行だ。確かに詩人本人は傍目からもそう見えていた。長編詩「トロムソコラージュ」はこの１行から始まる。

この詩は私にとって特別な詩だ。私が依頼して作られた長編詩だからというだけではない。この詩は俊太郎さん（当時７４歳）の後半の代表作であると私は思う。

この詩が書かれたのは、トロムソにご一緒した時で、「○○行書いたよ」と途中経過を知らせてくれた。この時のウキウキ感は人生最高級だった。

「飽きちゃうんですよね」と、新しい試みの詩集を出すたびに、そう言って、口語自由詩の自由詩たるフォルムや話法を作ってきたが、一つのフォルムに定着することなく、常に革新を試みてきたということは天才のなせる技と言って憚らない。

この詩は、帰国後しばらくして、写真と共にUSBメモリに入れられて、私の手元に来た。開いてみると、そのパワーと機知に富み縦横無尽な詩の運びに圧倒された。

私は立ち止まらないよ
私は水たまりの絶えない路地を歩いていく
五百年前に造られた長い回廊を
読んでいる本のページの上を
居眠りしている自分自身を歩いていくよ
太陽は陽気に照っている
または鍋色の雲のむこうに隠れている
またはこの星の反対側で働いている
または夕焼けに自己満足している
そして星は昼も夜も彼方にびっしりだ
私は立ち止まらないよ
でも戦車はね　ひっそり佇んでいるのがいい
木陰でね　少し錆びて
小鳥たちが止まりにくるよ
小鳥たちは色んな名前をもっているけど
私は覚えないよ　覚えたくないよ
だって小鳥は名前じゃないから
小鳥は一羽一羽がいのちなんだから
一は始まりの数だというけれど
終わりの数でもあるんだよ
私は一なんだ

（冒頭部分）
―「トロムソコラージュ」谷川俊太郎（『トロムソコラージュ』より・２００９年）

この縦横無尽さはなんなのだろう。
そして「二十億光年の孤独」からの基調音を奏でてきたテーマがリセットされ、次のシーンへと刷新された印象だ。若い宇宙人、青年から成熟していく人間を経て、若い神へと変化していったようだとはいえないだろうか。
また、この詩は生涯現役であった自由人の生き方を体現している詩だから、私のように世間に素直に交われないものにとって、希望を与えてくれるものだ。

＊追悼というには悼みがなさすぎる

生涯現役だった詩人の絶筆は「感謝」という詩だった。死の4日後、２０２４年１１月１７日の朝日新聞の連載「どこからか言葉が」欄に掲載された。そして１８日に荼毘に付された。その日は私の誕生日と重なった。翌１９日、死去が公に発表された。
詩人はしてやったり、と完璧な死後の演出に満足しているに違いない。

どこかでまた俊太郎さんのことを誰かと語りたい。
＊
（まつざきよしゆき・ポエムピース発行人）

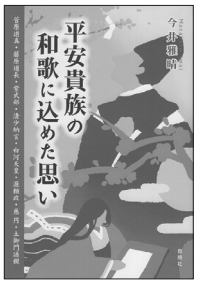
新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『ペリー提督日本遠征書簡集 ―上海・香港・　琉球・江戸湾・小笠原・箱館』●梓澤登訳 / ティネッロ・マルコ解説

米国連邦議会に保存される1853年（嘉永6）と54年のペリーの日本遠征記録文書『合衆国大統領教書：海軍日本遠征関連の信書類開示を求める1854年12月6日上院決議にもとづく海軍長官報告を示達する』の全訳である。
1852年11月米国海軍長官の出航命令、大統領から日本国皇帝宛親書と回答、応接係林大学頭との往復書簡ほか161点からなる。一部は、ホークス編『ペリー日本遠征記』などで知られていたが、完訳は初めてで、興味深いことばかりだ。中核は海軍長官とのやりとりである。長官はペリーに全権特使として絶大な裁量権を与え、通商関係の確立と、港、河川の進入口、浅瀬を測量し海図作成に必要な情報をもれなく収集する目的達成のために、断固たる決意と格段の慎重さをもって臨むよう入念に指示する。ペリーも、硬軟取り混ぜた交渉手法や江戸幕府の対応を事細かに報告している。琉球国との修好条約締結も大きな課題であった。この最中、米兵が土地の女性を暴行し、群衆に追われて溺死する事件が発生する。ペリーは琉球人の処罰は、両国間の礼譲の理念を尊重し琉球の判決に従うと、琉球国総理官に書簡を送る。軍人としてのみならず、日本、琉球、中国の歴史や内情に通じた知識人で老獪な外交官であったペリー像が浮かび上がってくる。母国との連絡は艦隊の僚船、快速郵便船、民間定期航路便が担った。片道２～３ヶ月を要したとはいえ、情報体制が整えられていたことに驚かされる。これだけでも綿密に準備された来航であったことが分かる。
（飯澤文夫）
◆4500円・Ａ５判・370頁・**榕樹書林**・沖縄・202411刊・ISBN9784898052501

『平安貴族の和歌に込めた思い　続 ―桓武天皇・在原業平・紀貫之・菅原孝標娘・侍賢門院堀河』●今井雅晴 著



平安時代から鎌倉時代にかけて盛んに行わ れていた和歌の会。人の心を表現する手段と して、歌題を決めて参加者が和歌を披露した り、優劣を競ったりもしたが、一方で貴族は 自分の思いを文章にして残すことは少なかっ た。日記は多く書かれたが、それは子孫に朝 廷での活動の仕方を教えるのが目的で、毎日 の思いを綴ったものではなかった。しかし、そんな日記の裏には、日常で個人的にふと思 いついた感想を詠んだ歌が書かれたりした。 元より気軽に詠まれ、記録されなかった歌も 多い。これらの歌こそ貴重な史料となる。
本書は2023年に出版された同タイトル本の続編。今回は桓武天皇・在原業平・藤原頼道・紀貫之・菅原孝標女・侍賢門院堀河・藤原 忠道・平忠盛の８人を取り上げ、同様に平安 貴族たちがいかに自分の思いを和歌に込めた かを探る。桓武天皇は都を奈良から平安京に 遷した人物で、菊を最初に歌に詠み込んだと 言われているが、残っている和歌は６首しか なかった。紀貫之は『古今和歌集』の編纂者 で『土佐日記』も著すが、身分が低い貧乏貴 族でアルバイトで和歌の代作を得意としてい た。鳥羽天皇の中宮の侍賢門院に仕えた堀河 も同じく代作で稼いでいたなど、当時の事情 も紹介。父・道長と対照的な政治を行い、50 年にわたり政権を維持した藤原頼道、息子の 清盛とは違い、友好的で人望が厚かった平忠 盛と、親子関係も示す。和歌を通して時代や 先人の思いを汲み取れば、現代を生きるヒントも見えてくる。（Y）
◆1800円・Ｂ６判・159頁・**自照社**・滋賀・202411刊・ISBN9784910494371

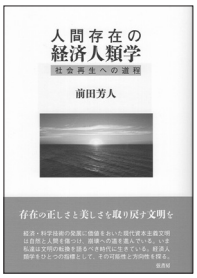
『殿様が三人いた村　増補新版 －葛飾郡幸谷村と関家の江戸時代』●渡辺尚志 著

本書は２０１７年に崙書房出版から発行されるも、版元の廃業で絶版となり、東葛地域の歴史好きが再版を期待した幻の名著の増補新版である。

新版では各章に「親子の会話」と題したコラムが付いて旧版よりも読みやすくなった。「松戸の江戸時代を知る」シリーズとしては４作目だが、近世史の専門家である著者が初めて地元松戸の江戸時代について書いた本であり、当時の幸谷村の暮らしの姿全般を丁寧に描いているので、シリーズ全体の概説書としても読める。けれども本書の真価はそれだけでなく、記載内容の圧倒的な臨場感にある。それは何故か。舞台となった幸谷村の名主関武左衛門家は、現在「関さんの森エコミュージアム」として、「関さんの森を育む会」によって総合的に整備、運用され、一般公開されているからだ。そこでは屋敷林をはじめ関家の宅地建物（母屋は建て替え）、古文書や民具などを含む自然財産、歴史遺産の全体が残され、江戸時代に思いを馳せることが出来る。そして本書自体が著者を中心とした「関さんの森・古文書の会」のメンバーが蔵に残る古文書を調査・研究した成果なのだ。さらに関家だけでなく本書で紹介される福昌寺、観音堂、赤城神社、用水路、小金宿の東漸寺、旅籠屋玉屋はいまも同じ場所に残る。読者は本書を片手に、これらの場所を歩けば江戸時代の村をより身近に感じられるであろう。最後に意味深なタイトルについては秘密です。本を読んで謎を解いて下さい。（石井一彦）

◆ 1600円・Ａ５判・247頁・**たけしま出版**・千葉・202412刊・ISBN9784925111782

『人間存在の経済人類学 －社会再生への道程』●前田芳人 著



かつてヨーロッパで発生した特殊歴史的な経済原理が今や地上の隅々まで貫徹しようとし、自然も人も疲弊の度を深めているが、「悪魔の挽き臼」にも喩えられる絶え間ない資本の運動を誰も止めることができず、科学技術知の総力をあげて市場競争原理に人類社会の将来を託そうとしているかに見える…このような経済状況を著者は深刻な危機意識を持って「経済の狂気的暴走」といい「道徳律なき経済」ともいう。その時代認識のもと本書は、互酬と相互扶助に基づいた風土論的経済社会への道筋をつけようとする。そこで最初に取り上げられるのが、近代市場社会に根本的な疑問を呈したＫ・ポランニーの非市場社会における市場つまり「本来的市場」である。また、Ｊ・Ｓ・ミルの理論から、経済成長が減速し、定常型経済へ移行する社会の基本的イメージを得る。そして論究は経済学の範疇を超え、作家の石牟礼道子や童謡詩人の金子みすゞ、地方工芸に着目した柳宗悦や井筒俊彦のコスモス論へと及ぶ。そこから導きだされた社会構想の要は、第一次的産業を市場競争原理から切り離し、「無主、総有」の風土論的経済原理のもとに再編成して防衛するということにある。そこでも農産物は確かに市場に出されるが、それは交換価値原理に基づいた利潤の最大化のためにではなく、本来的市場の使用価値原理に基づいた互酬と相互扶助を原形とし、「半市場」で「半商品」として「半貨幣」によって交換されるのである。これを著者は「もうひとつの経済」とも呼ぶ。（岡安　清）

◆ 3200円・Ａ５判・458頁・**弦書房**・福岡・202412刊・ISBN9784863292949

『伯備線貨物写真集』●今井出版 編

岡山県の倉敷駅と鳥取県の伯耆大山駅を結ぶ伯備線は、特急列車が何本も走る山陽と山陰を結ぶ重要な路線です。しかし行き交うのは決して人間ばかりではありません。往年ほどではありませんが、現在でも貨物列車が日々走っています。本書はそんな伯備線を走る貨物列車の雄姿をまとめた写真集です。まず伯備線の貨物列車ときて鉄道ファンに思い起こされるのが、布原信号場を行くD51三重連ですが、その写真ももちろん収録されています。重厚な蒸気機関車が三両連結で黒煙を濛々と挙げながら山峡を行く姿は迫力満点。かつてここが蒸気機関車の撮影の名所とされたのも肯けます。その他にも貨物輸送の盛んだったころの写真では、機関車の後ろに続く貨車も、コンテナ車ばかりの今と比べると、色々とバラエティーに富んでいて楽しいですね。

かといって本写真集の多くを占める現代の貨物列車に見どころがないわけではありません。電気機関車がコンテナ車を幾両も連ねて走る姿は、統一された編成美を感じさせます。中国山地を縫うように流れる高梁川に沿って走る、カーブの多い線形である伯備線では、長大なコンテナ貨物列車は時にさながら竜のようにも見えます。また路線を取り巻く自然は四季折々に姿を変え写真に彩りを添えます。特に冬の山陰の雪景色は自然の厳しさを伝えてくれます。巻末にはめったに見られない、王子製紙米子工場専用線の記事もあり、とりわけ鉄道ファンには見逃せない一冊です。（副隊長）

◆ 3000円・250mm × 240mm判・107頁・**今井出版**・鳥取・202411刊・ISBN9784866114194

売行良好書

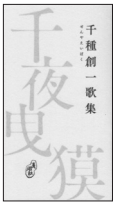
期間：2024年12月15日～2025年1月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『少年が来る』2500円・クオン　(2)『菜食主義者』2200円・クオン　(3)『幸せについて』1000円・ナナロク社　(4)『となりの谷川俊太郎』1454円・ポエムピース　(5)『短歌ムック　ねむらない樹　ｖｏｌ．１２』1300円・書肆侃侃房　(6)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(7)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社　(8)『調査されるという迷惑　増補版』1500円・みずのわ出版　(9)『ショッピン・イン・アオモリ』1800円・東奥日報社　(10)『歴史を複眼で見る』2100円・弦書房　(11)『ストリップ劇場のある街、あった街』2500円・寿郎社　(12)『追跡・鹿児島県警　闇を暴け！』1800円・南方新社　(13)『東京子ども図書館　５０年のあゆみ』1600円・東京子ども図書館

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『老人ホームで死ぬほどモテたい』1700円・書肆侃侃房　(2)『軌道を描いて』2000円・プレスアート　(3)『ストリップ劇場のある街、あった街』2500円・寿郎社　(4)『復興　熊本城　Ｖｏｌ．８』1100円・熊本日日新聞社　(5)『千夜曳獏』1800円・青磁社　(6)『ドングリの木はなぜイモムシ、ケムシだらけなのか？』1800円・サンライズ出版　(7)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版　(8)『渡辺京二論　隠れた小径を行く』2200円・弦書房　(9)『地下室のオドラデク』2500円・上毛新聞社　(10)『新訂　ジュニア版　琉球沖縄史』1500円・編集工房東洋企画　(11)『死に損ないの獣たちへ』1800円・かりん舎　(12)『九州異世界遺産』2000円・海鳥社　(13)『山陰の戦乱』2000円・今井出版　(14)『調査されるという迷惑　増補版』1500円・みずのわ出版　(15)『ゆるりと風に。ここは北欧』1800円・桂書房　(16)『「新装版」対談　ヤポネシアの海辺から』2000円・弦書房　(17)『玄洋社とは何者か』2000円・弦書房



以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　Ｘ（旧ツイッター）公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼昨年本誌上でお知らせしました通り、「アクセス」誌は紙の情報誌としては本年８月号をもって休刊となり、以降ホームページ上で「Web情報誌アクセス」として生まれ変わる予定でおります。当初は刊行ペースを隔月刊あるいは季刊に変更することを想定しておりましたが、これまで通り月次の新刊情報や近刊情報を掲載することを考慮すると、やはり月刊の刊行ペースを守るべきという結論となりました。本年８月号をもって紙版休刊後、間をあけずに８月下旬から【Web情報誌アクセス】としてホームページ内に無料公開していく予定ですので、引き続き閲覧を希望される方には、メールにてアップ情報をお知らせいたします。よろしければ、当方ホームページの「ご注文方法」にあります「◎一般読者様お問い合わせ・ご注文フォーム」内の「書名・ISBN・冊数 ほか」欄に「アクセスアップ情報希望」と明記いただき、送信くださるようお願い申し上げます。eメールアドレス入力が必須となっておりますが、他の用途にeメールアドレス情報を使用することはありません。以下「◎一般読者様お問い合わせ・ご注文フォーム」のURLとなります。
https://ws.formzu.net/fgen/S400534946/

▼なお、パソコンやネット利用が難しく、かつ今後とも地方出版社や小出版社の刊行情報を必要とされている方は、引き続き、【Web情報誌アクセス】掲載の新刊情報をプリントアウトして郵送させていただく方針ですので、その旨「アクセス」誌発送係までお声かけください。

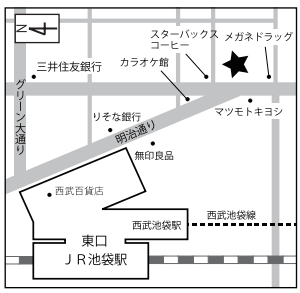
▼この「◎一般読者様お問い合わせ・ご注文フォーム」では直接販売のご注文も受け付けております。ご注文後、調達状況や料金等につきまして返信いたしますので、是非ご利用くださいますようよろしくお願いいたします。

＊

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

ジュンク堂書店
淳久堂書店
池袋本店
営業時間：午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

２階「ふるさとの棚」では、
地方小出版流通センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、
皆様のお越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL　03-5956-6111
http://www.junkudo.co.jp